

# 日本語・日本文化教育センター

## 1 理念・目的

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

日本語・日本文化教育センターは、主として外国人留学生に対し日本語および日本文化に関する教育を行うことを目的としている（慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター規程第2条（目的））。当センターはこの目的の下、別科・日本語研修課程において、同課程の正科生たる私費留学生を受け入れ、さらに慶應義塾大学における全塾協定および部局間協定による交換留学生、文部科学省奨学金による国費留学生、特別短期留学生、訪問研究員等を正科生および聴講生として幅広く受け入れることにより、外国人留学生に対する日本語および日本文化に関する教育を行っている。

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

当センターは、留学生のみを対象としており、また、比較的小規模であることから、かつては大学構成員全体からの認知度は高くなかったが、近年は大学全体の国際化推進の動きの中、既にそれなりの認知を得るにいたっている。他方、海外および留学生の間では、当センターの日本語教育の水準の高さがつとに知られている。

## 2 教育研究組織

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

年々増大する慶應義塾大学の留学生数と、それを受け入れる各種プログラム数の増大により、当センター教員の負荷は増加し続けている。時代の要請に見合う適切な専任教員数の見直しが必要である。

## 3 教員・教員組織

(1) 大学として求める教員像および教員組織の編成方針を明確に定めているか。

当センターの、日本語および日本文化に関する教育、という目的を達成するため、その活動を担う教員は日本語教育を専門とする者であることを定めている。教員組織として、センター運営全般に責任を負う者として所長とそれを補佐する副所長を置き、その下にセンターの学務運営を統括する者として学習指導主任および副主任を任命している。

(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

上記組織編成は当センターの教育活動を遂行する目的に合致しており、専任教員 10 名（平成 24〔2012〕年 6 月現在）という組織規模に対して適切であるといえる。ただし、近年の特に大学院レベルにおける留学生受け入れプログラム数の増加および慶應義塾大学全体の留学生数拡大政策による日本語教育ニーズの増大と多様化により、当センターの教員組織に関する量的拡大と、役職の細分化・専門化等の組織再編の必要が生ずることもあり

えよう。

(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

教員募集に際しては、所長・副所長を含む専任教員による人事委員会を設置し、関係諸研究教育機関および研究者人材データベース等を通じて広報を行い、集まった多数の応募者から書類審査により数名を選抜した後、模擬授業と面接による二次・三次選考を行って採用候補者を運営委員会に推薦し、審議の上採用している。教員の昇格については、昇任審査受験資格と審査方法に関する内規を整備し、明確なルールに則って行っている。

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

日本語および日本文化に関する研究活動に加え、同分野に対する教育活動に同等の力点を置いている当センターにおいては、日本語教授法・授業運営に関して専任教員間および専任教員と非常勤教員の密接な連携と協力が行われており、教員の資質の向上、教育効果の向上が常に図られている。

## 6 学生支援

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

当センターの教育は、少人数制教育・学習段階別教育システム・学習および生活に関する個別学習指導等、学生の学修と生活に関する万全の支援方針に基づき行われている。

(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

当センターの教育課程である別科・日本語研修課程は、定員 180 名の正科生をそれぞれの日本語能力に応じて 12 の学習段階に細分化して少人数編成のクラス別教育を行い、各クラスに担任を置いている。このことにより、1 クラスあたりの学生数が数名から最大でも 10 数名という語学教育にとって理想的な教育環境を提供しており、各学生への指導、履修のアドバイスを個別に行い、また各学生の学習状況を適切に把握している。

(3) 学生の生活支援は適切に行われているか。

別科・日本語研修課程の特色である上記少人数教育システムにより、教員は学生と密接なコミュニケーションをとっており、各教員は学生個々の生活態度・状況を常に把握している。健康に不安のある学生や生活上の問題を抱える学生については授業の前後やオフィスアワー等を利用して相談に乗り、必要に応じてカウンセラーの紹介や事務室への連絡等を行っている。

(4) 学生の進路支援は適切に行われているか。

当センターの教育課程である別科・日本語研修課程は、留学生が大学の学部課程への入学準備を行うためのいわゆる日本語予備教育機関とは異なり、すでに大学学部レベルの教育を受けた者が更なる専門的研究を継続し、または自らのキャリア形成上必要な専門教育

を受けるために必要な日本語および日本文化の習得に資することを目的とする。そのため、別科・日本語研修課程終了後の進路について、学生自らが入学時点で明確な目標を持っているケースが大半であり、当センターとして組織的に進路支援に注力はしていない。ただし、学習指導主任および各クラス担任は、必要に応じて個別の相談に応じている。

## 7 教育研究等環境

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

施設設備の整備は基本的に慶應義塾大学の管理方針に従い、大学全体の施設計画の枠組みの中で行っているが、当センターの活動目的に資するための要望を大学当局に対して提出している。

(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

別科・日本語研修課程における指導の主要拠点である三田キャンパスは都心に位置しており、校地・校舎の狭小さと老朽化した施設が長年の課題であった。しかし、近年の三田キャンパスにおける校舎建て替えと容積拡大により、専任教員研究個室・非常勤講師教員室・書庫・会議スペース等の専用スペースを南館6階に確保し、また平成23(2011)年度に建て替えが完了した南校舎各教室の使用を開始したことにより、教員の学習指導環境、学生の学習環境・設備ともに改善を果たした。一方、主に他学部・研究科の日本語初学者用授業を開講している日吉キャンパスにおいて、教室の極端な不足による別科・日本語研修課程用教室の質的・数的不足が平成23(2011)年度に顕在化しており、対策が急務となっている。

(3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

慶應義塾大学の教育・研究支える図書館は、6つのキャンパスにそれぞれメディアセンターとして設置され、図書、雑誌等のコレクションに加え、電子化の進展に伴い多様な学術データベースや電子ジャーナルを揃え、必要な時に必要な情報を利用できる環境を整えており、6キャンパス合計で180万冊の蔵書を有している。別科・日本語研修課程生はインターネットを活用して、リモートアクセスやオンラインリクエストといった、館外からアクセス可能なサービスによってこれらを自由に利用可能であり、充実した教育環境にあるといえる。また、各キャンパスにはネットワークおよびコンピュータの利用環境を提供するインフォメーションテクノロジーセンター(ITC)が設置され、別科・日本語研修課程生には他の慶應義塾の学生と同様に高速情報環境が提供されている。

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

慶應義塾管財部は十分な費用を投じて教育研究環境の整備・改善を行っており、別科・日本語研修課程が利用する教育研究環境も年々改善されてきている。

## 8 社会連携・社会貢献

(1) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

当センターは年1回研究紀要『日本語と日本語教育』を発行しており、研究成果を広く社会に発信している。

## 10 内部質保証

### (1) 内部保証に関するシステムを整備し適切に機能させているか。

日本語教授法・授業運営に関して、専任教員間および専任教員と非常勤教員の密接な連携と協力が行われおり、教員の資質の向上、教育効果の向上が常に図られている。また、少人数のクラス編成により、教員・学生が活発に意見交換の機会を持つことで常に授業の質向上が図られている。